

## スポーツ博物館将来構想検討会議の「審議のまとめ」骨子（案）

本検討会議で審議する各論点について、第 1 回会議及び第 2 回会議でいただいたご意見をまとめたもの

※下線は、第 2 回会議の意見

### 〔1. JSC がスポーツ博物館（図書館を含む。）を設置する意義〕

#### ＜検討会議での意見＞

- ・秩父宮様のご遺志を踏まえ、博物館がスポーツの情報発信の拠点となるべき。
- ・博物館の使命は社会教育の推進。行政の役目を果たしていくべき。
- ・スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく必要がある。
- ・日本のスポーツの歴史の概要を知る上で貴重な資料群を活用し、海外を含めて情報発信する。
- ・民間ベースで運用する仕組みも検討の一つ。
- ・スポーツ博物館を設置する意義やコンセプトは、学術団体の要望書に沿った形になっているので良い。

### 〔2. コンセプト（趣旨、目的、役割）〕

#### ＜検討会議での意見＞

- ・秩父宮様のご遺志を踏まえ、博物館がスポーツの情報発信の拠点となるべき。（再掲）
- ・スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく必要がある。（再掲）
- ・「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」という理念をしっかりと持つべき。
- ・時代に合ったスポーツ文化・芸術を作っていくべき。
- ・ミュージアム同士のネットワークの構築と役割分担が必要（コンセプトの明確化）。
- ・博物館の敷居を下げ、行って楽しい博物館であるべき。
- ・多くの人が来るようにするためには従来の博物館のイメージの払拭が必要。
- ・コンセプト、イメージは、もっと見せ方、打ち出し方を工夫すべき。
- ・博物館は、入るのに敷居が高いイメージがある。例えばレストランの併設など、入りやすい要素を盛り込む検討が必要。
- ・世界に開かれた、少なくともアジアに開かれた博物館にしていくべき。
- ・スポーツ博物館に来ればアジアを含めてスポーツのことがすべて理解できるだけの資料が保存されていることが大事。
- ・スポーツ博物館を設置する意義やコンセプトは、学術団体の要望書に沿った形になっているので良い。
- ・JSC のもとで何ができるかというアウトプットを出しつつ、この検討会議で収まりきらない部分については、国にこういうことを考えてほしいという要望があれば検討していきたい。

### 〔3. 事業内容〕

- 収集・保存

### <検討会議での意見>

- ・メダルなど、実物資料を所蔵していくことが大事。
- ・スポーツ資料をどう残すのか、ということとも共通するので、スポーツ庁の内部で横の連携が必要。
- ・まずは基本となる資料のデータの整理を行い、公開することで利活用につながる。
- ・目録の作成は重要である。今どのくらいの資料があるか聞かれたときに、検索できるような状態になっていることが重要。
- ・資料を「見せる」、「使う」だけでなく、資料のメンテナンスを行う「保存管理」の機能を盛り込む。
- ・デジタルアーカイブを考える場合は、目録と画像を分けて考えた方がよい。必要な予算や作業も変わってくるので、JSCが実現するサービスの度合いをよく考えて決るべき。
- ・デジタルアーカイブに関して、システムの管理に加えデジタル化の経費だけでも相当の費用がかかる。何をデジタル化するか優先順位を決めるべき。
- ・「デジタルアーカイブ」は利用と保存の両方に活かせるが、やるには、人もお金もかかり覚悟が必要。
- ・JSCが中心となって、組織体を作り、競技団体等と役割分担をすれば、自身でやる仕事も限定される。国のスポーツ基本計画にもネットワーク構築が書かれているので、予算を確保して、組織体を作ってほしい。
- ・スポーツ博物館の資料のことだけでなく、日本のスポーツの歴史に関わる資料をこれからどう役割分担しながら残していくのか、発展させながら議論すべき。
- ・昔のことが分かる秩父宮記念スポーツ博物館の図書館資料が非常に役立った。今後、スポーツ博物館が拠点として、100年後、200年後も使われるようになればいい。

## ●調査研究

### <検討会議での意見>

- ・競技スポーツだけではなく、運動会など生活に密着しているスポーツも題材としては。
- ・スポーツを通して世界の国や人がどのように考えているのかという視点も加えると、よりスポーツ博物館としての価値が高まる。
- ・スポーツ博物館に来ればアジアを含めてスポーツのことがすべて理解できるだけの資料が保存されていることが大事。(再掲)
- ・日本における障がい者スポーツは歴史が浅く、資料も残っていない。学術的な研究の環境が十分整っていないことは今後の課題。
- ・障がい者スポーツの研究は、まだまだ未開拓で、発展性のある分野と捉えるべき。
- ・日本体育学会には障がい者スポーツの分科会があるので、障がい者スポーツに関する研究も出てきており、関心は高まっている。

## ●展示公開

### <検討会議での意見>

- ・「資料の収集、保存だけ」ではなく、資料が持つ価値を公開して、価値観の共有が一番大事。
- ・様々なテーマを設けて展示を行うことが重要。日本独自の様々なテーマ設定（「祭り」や、社会の復興とスポーツ）の展示をすれば、新しいスポーツの価値を示すことが可能。
- ・訪れた人がスポーツを「やりたくなる」「こうやったらできる」「楽しくできる」ことを紹介する形

で体験できるとよい。

- ・祖父母と孫の組合せが体験できるものなど、新しい展示を取り入れるのが良い。

#### ●教育普及

##### <検討会議での意見>

- ・祖父母と孫の組合せが体験できるものなど、新しい展示を取り入れるのが良い。(再掲)
- ・スポーツ博物館には「スポーツの可能性をさらに広げる関連情報を提供するコンシェルジュ」「スポーツに関する情報に新たな価値を持たせ、イベントなどを通じて情報発信するキュレーションサイト」の2機能を期待している。特に子供を含めた一般向けのイベントなどを通じ、スポーツの普及を充実してほしい。

#### ●交流

##### <検討会議での意見>

- ・ミュージアム同士のネットワークの構築と役割分担が必要(コンセプトの明確化)。(再掲)
- ・JSCが中心となって、組織体を作り、競技団体等と役割分担をすれば、自身でやる仕事も限定される。国のスポーツ基本計画にもネットワークが書かれているので、予算を確保して、組織体を作ってほしい。
- ・スポーツ博物館の資料のことだけでなく、日本のスポーツの歴史に関わる資料をこれからどう役割分担しながら残していくのか、発展させながら議論すべき。
- ・ネットワークはいろいろあり、団体のネットワークだけでなく、展示等を目的とした借用による資料のネットワーク、研修やイベントによる人のネットワークが作れる仕組みなどを盛り込むと、ネットワークがきめ細やかなものになる。
- ・JSCが中心となるネットワークとは別に、他のネットワークに加わることも考えた方がよい。スポーツ博物館を知らない人にも知ってもらうことができる。
- ・関係機関との連携に関して、年に1回集まり、大きな枠組でテーマを決め、様々な課題の議論をしている。また、同じような業務を行っている機関と定期的に情報交換の場を設けている。定期的に顔を合わせる機会を作るのが重要。
- ・スポーツ博物館には「スポーツの可能性をさらに広げる関連情報を提供するコンシェルジュ」「スポーツに関する情報に新たな価値を持たせ、イベントなどを通じて情報発信するキュレーションサイト」の2機能を期待。特に子供を含めた一般向けのイベントなどを通じ、スポーツの普及を充実してほしい。(再掲)

#### ●図書室

##### <検討会議での意見>

- ・昔のことが分かる秩父宮記念スポーツ博物館の図書館資料が非常に役立った。今後、スポーツ博物館が拠点として、100年後、200年後も使われるようになればいい。(再掲)
- ・本来、博物館資料と図書資料の関係は、基本的には博物館資料を調べるために図書資料があるので一体であることが理想。

## 〔4. 設置エリア〕

##### <検討会議での意見>

- ・設置エリアについては、メリット・デメリット両方ある中で、外苑エリアか代々木エリアがいいと思うが、西が丘エリアとの比較表では議論がしづらい。
- ・前回の1964大会同様に2020東京大会を記念したスポーツの聖地として新国立競技場に多くの人が訪れると考えられるので、施設の関連性、来館者の利便性を考慮して、新国立競技場に近い秩父宮ラグビー場にスポーツ博物館を設置してほしい。
- ・JSCのスポーツ博物館を秩父宮ラグビー場に設置することで、スポーツクラスターとなる神宮の森に来れば、オリンピックのことから日本のスポーツの歴史まで全て分かり、単なる競技施設の集積ではなく、「スポーツに関する文化の集積地」として相乗効果が得られると考える。
- ・JOCがオリンピックミュージアムを開館するので、場所はその近くが良い。
- ・収集・保存、調査研究のエリアと、利活用の部分を切り離すことはできないのか。具体的にモノを展示するなら、神宮外苑エリアしかないと思うが、資料を保存してデジタル化していくのは必ずしも神宮外苑エリアに持ってくる必要はない。
- ・展示替え等もあるので資料が身近にあり、収蔵庫やデータが展示場、研究員、事務担当がいる場所と一体の施設の方が、運営上は好ましい。
- ・独立行政法人である以上は、入場者数が一つの評価となる。人が来る、集まるという観点で設置エリアを考えては。
- ・スポーツをやっている人たちもちろん大事だが、そうではない一般の方々に対してスポーツの価値や文化を広めていくことは、スポーツが世界共通の文化であるというコンセプトにも近づいていく。
- ・本来、博物館資料と図書資料の関係は、基本的には博物館資料を調べるために図書資料があるので一体であることが理想。(再掲)

## 〔5. 面積の考え方〕

## 〔6. 資料収集の基本的考え方と所蔵資料の整理〕

### <検討会議での意見>

- ・メダルなど、実物資料を所蔵していくことが大事。(再掲)
- ・日本障がい者スポーツ協会は当初職員が少なく、資料としての文書、学術的な文書はほとんど収集・保存してこなかった。スポーツ博物館が再開するのを機会に、関係者から文書やモノ資料を集めていかないと状況は変わらない。
- ・JSCが中心となって、組織体を作り、競技団体等と役割分担をすれば、自身でやる仕事も限定される。国のスポーツ基本計画にもネットワーク構築が書かれているので、予算を確保して、組織体を作してほしい。(再掲)
- ・スポーツ博物館の資料のことだけでなく、日本のスポーツの歴史に関わる資料をこれからどう役割分担しながら残していくのか、発展させながら議論すべき。(再掲)
- ・資料の収集・保存と調査研究という目録作りに必要なフェーズがあって、目録が整理されてからで

ないと資料の利活用に入れない。第1期計画、第2期計画など計画をフェーズに区切り、段階を踏んだ計画を立てる必要がある。

## 〔7. 運営形態（直営、民営など）〕

### ＜検討会議での意見＞

- ・国の予算だと資金も限られ、直営だと厳しい面もあるので、自由度を上げるために民間に委ねることも検討の一つ。大きな枠を JSC が見ていけばよい。
- ・運営形態は、民間事業者に目標数値を示し、企画提案型のような形の業務委託をしていかなければいけない。
- ・運営形態は、何らか民間の活力を利用しなければならないだろう。専門的な業務を除けば、業務委託を考えた方がよい。

## 〔8. 名称〕

### ＜検討会議での意見＞

- ・歴史的経緯やこれまでの役割を踏まえ、「秩父宮記念」の冠をもったスポーツ博物館としてほしい。

## 〔9. 収入確保策〕

### ＜検討会議での意見＞

- ・博物館は、入るのに敷居が高いイメージがある。例えばレストランの併設など、入りやすい要素を盛り込む検討が必要。(再掲)
- ・人が来るようにするためには従来の博物館のイメージを払拭していくべき。(再掲)
- ・休館前のスポーツ博物館の入場者は少ない。最も多かった平成 25 年度（約 28,000 人）が当たり前ぐらいで、それ以上を目指さなければならない。
- ・過去に実施していたスタジアムツアーは、さらにコンテンツをより良くしていくことも必要。
- ・JOC はオリンピックに関する展示を中心したミュージアムを来年 9 月に神宮外苑に開館する。JSC のスポーツ博物館を秩父宮ラグビー場に設置することで、「スポーツに関する文化の集積地」として相乗効果が得られると考える。(再掲)
- ・デジタルアーカイブ化を進めるには、システムを構築する費用、システムを管理運営する費用、画像又は書誌情報を毎回作成する費用など、一つ一つ費用が発生するため、個別に確認した方がよい。(再掲)
- ・デジタルアーカイブに関して、システムの管理に加えデジタル化の経費だけでも相当の費用がかかる。何をデジタル化するか優先順位を決めるとよい。(再掲)
- ・いろいろな事業についての実現可能性、フィージビリティなどをよく考えて、メリハリをつけていかなければいけないのが現実である。優先順位やどこを中心とするか考え、1 期、2 期のようなロードマップも考え、着実に理想を目指しながらどうステップを踏んでいくかを議論すべき。

## 〔10. 開館を見通した具体的な年次計画〕

### ＜検討会議での意見＞

- ・資料の収集・保存と調査研究という目録作りに必要なフェーズがあつて、目録が整理されてからでないと資料の利活用に入れない。第1期計画、第2期計画など計画をフェーズに区切り、段階を踏んだ計画を立てる必要がある。(再掲)
- ・いろいろな事業についての実現可能性、フィージビリティなどをよく考えて、メリハリをつけていかなければいけないのが現実である。優先順位やどこを中心とするか考え、1期、2期のようなロードマップも考え、着実に理想を目指しながらどうステップを踏んでいくかを議論すべき。(再掲)

**【参考：第1回会議(8/1)における、将来構想検討のための論点(案)】**

- ✓(独法として)JSCがスポーツ博物館(図書館を含む。)を設置する意義
- ✓コンセプト(趣旨、目的、役割)
- ✓事業内容(体験コーナーを活用した展示方法の工夫、デジタルアーカイブの活用、ネットワーク、図書館の在り方など)
- ✓名称
- ✓設置エリア
- ✓必要な面積
- ✓資料の収集方針
- ✓所蔵資料の仕分け(考え方、進め方)
- ✓運営形態(直営・民営など)
- ✓収入確保策(収支見通し)
- ✓開館を見通した具体的な年次計画